

私の名前は高千穂^{たかちほ}ツバキ。ゾイエス学園初等部に通う五年生です。普段は普通の小学生ですが、とあるお店で看板娘を務めさせていただいたりもしています。

そのお店——といっても、利益を得る事が目的ではなく、多分に趣味の範囲ですが、そこには私以外にも三人の看板娘がいます。私は彼女等よりも遅れて参加したので、このお店では実際の年齢と同じく、末っ子のように面倒を見ていただいています。

今の生活は充実していて、人間関係にも恵まれていて、きっと私は幸せな部類に入る人間だと思えます。

ですが、どんなに幸せな日々を送っていても、つらい事があります。不幸のない人間なんていません。それは私も例外ではなく——

これは、私の抱えている問題の中でも、最上位に当たる悩みのお話です。

2戦目

『厄介な雇い主』

私達『看板娘』の仕事は多岐にわたる——というか、雑多だ。メインの業務内容は、喫茶店『局地戦・改』での接客だが、イベントと称してコスプレ写真を撮られたり、番組風のトークをさせられたり、時には役者のような事もさせられる。

それに関しての是非はない。賃金こそ発生しないが、それにも特に不満はない。それ以上のものを得ていると思えているからだ。

あえて不満があるとすれば、それは雇い主の存在だろう。

私達看板娘の雇い主——通称・マイスター。

『マイスター』とは、いわゆる職人や芸術家に対して使う敬称や称号の事だが、彼が自己顕示欲を満たすためにそう呼ばせている訳ではない。とある作品で使われた、その呼称が気に入らぬ、意味合いとしても適当だったために採用したらしい。つまりは『店長』や『社長』と同じだ。

で、そのマイスターの何に不満があるかといえば——主に人間性だ。

善人ではないが悪人でもない。

非常識ではないが良識があるともいえない。

言葉を選ばずに彼を評するなら——ダメ人間だろう。

駄目なところを挙げていけばキリがないが、まずはコスプレ趣味だ。あくまで個人の趣味であれば構わないが、『制服』と称してメイド服を十代の少女達に着させるのは如何なるのか。そして、私だけドレスにエプロンではなく、和・服・エ・プロ・ン・な・も・セ・ン・ス・を・疑・う。

和服エプロン自体を否定はしない。むしろ、和服は好きなので嬉しいくらいだ。だが、私だけ制服が違うというのが複雑というか。

マイスター曰く、私が追加戦士ポジションだからというのが理由だ。

日曜朝のヒーロー番組を観た事のある者なら知っていると思うが、『追加戦士』とは名前の通り、番組途中から主人公達の仲間になる戦士の事。

そう。私はそれまで三人でやっていた看板娘達の中に遅れてやってきた、まさに追加戦士なのだ。そして、追加戦士というのは装備やスタンスが初期メンバーとは微妙に違っているのがお約束で、それに依って私の制服だけ和服エプロンになった。

何の必要性があってヒーロー番組に依うのかは単純で、マイスターの趣味だからだ。まあ、あの番組は私も好きなので、そこまで異存はないが……やはり、ちょっとした疎外感
は拭えない。

別にメイド服を着たい訳ではない。念のため。

次に不満なのが私に対するセクハラだ。

他の三人と違い、私は『もう一つの場所』でも看板娘をやっているのだが、主に『もう

一つの場所』でのセクハラがひどい。正直、訴えれば勝てる。だが、それが出来ないのが悩ましい点であり、マイスターもそれを判っている。

とはいえ、あくまで精神面に対するセクハラで、物理的的行為に及ぶ事は……なくもない。やはり訴えるべきだろうか？

ともかく、深刻に受け止めてもらわないとならないレベルではない。ただ時々、ほんのちよつとだけ、稀に殺意が湧くくらいにはイラッとする。あくまで、その程度の話だ。

私は少し、ほんのちよつとだけ、同年代の子よりも部分的に発育が良い。着痩せするタイプなので、普段はコーディネートなどで誤魔化しており、そういう意味では和服は都合がいい。

なにせ隠したい部分は胸だから。

身長こそ平均的な小学五年生のそれだが、だからこそ胸が大きい——ほんのちよつとだが——のがアンバランスで目立ってしまい恥ずかしいのだ。

それをネタにあれこれ弄るのは勘弁してほしい。笑われたり馬鹿にされている訳ではないが、コンプレックスというのは指摘される事自体が嫌なのだから。

某・メイドさんも言っていた。女性の胸というのは、赤ちゃんと食べ物を与えるための大切な器官であって、けっして殿方のいやらしい目にさらしてよいものではありません——と。

……まあ、彼女の場合は自分の胸が小さいが故の、コンプレックスの発露だった可能性も否定出来ないが。

ともかく——身体に関する事がデリケートな問題なのに変わりはない。やはり一度、徹底的に抗議すべきかもしれない。

「……………」

ただ、マイスターはマイスターで、鬱屈しているというか、溜まっているものがあるのだろうと思う。基本的に人間嫌いで、世の中に不満だらけで嫌気がさして、出来る限りそういういったものに関わらずに生きている。それは人間として生活していく上で、途轍もなく厄介だろう。

雇い主の愚痴を聞くのも看板娘の仕事の範疇だと思えば、セクハラくらいは笑顔で躲けてあげてもいいのかもしれない。私はメイドではないが、奉仕の心は持ち合わせているのだから。

「——あら？」

目下の悩みの種類に対する方針を決めていると、携帯電話にメールの着信があった。差出人は件の雇い主。



Mission complete

『ロリ巨乳の出前をナルハヤでシクヨロ！』
件名はなく、本文にはそれだけ書かれていた。

「……『すぐにおちのめしに伺うかがいますので、其処そこを動かうごかならないでああらら♡』と。送信」
私は手早く返信を済ませ、「はあ」と溜息ためいきを吐つく。

「看板娘、やめようかな……」

あとがき

どうも、るとおあき流遠亜沙です。

『そーりよくせんっ！』二戦目をお届け致します。

これを読まれている『あなた』は、上司や先輩に恵まれていますか？ これはあくまで創作フイクションであり、マイスターとツバキの関係性であるから許されますが、セクハラはダメ、ゼツタイ！ しかしマイスターっていうのは悪い奴ですね。ツバキの優しさに付け込んで、小学生のロリっ娘にセクハラなどと言語道断です。このダメ人間め！

……あれ、なんでだろう、心が痛い。

ちなみに、劇中に出てくる『とある作品』というのは『リリカルなのはAs』です。最終話に登場する人型のデバイス・リインフォースⅡが、創造主に対してマイスターと呼んでいたのが気に入って呼ばせています。『某・メイドさん』は『まほろまでいっく』のまほろろさんです。これに関しては説明は不要ですね。もしくはググってください。

それでは謝辞を。

まずはイラストを描いてくださったポイズンさんに感謝を。ありがとっございます。このイラストは、氏のブログの七万アクセスのギリギリクエスト（ニアピンですが）です。可愛いですね。アンニユイな雰囲気たまが堪りません。こう、ぎゅっと抱きしめたくなるような、思わず意地悪したくなるような、そんな気持ちにさせられます。

そして、ここまで読んでくださった『あなた』に感謝を。ありがとっございます。

今後も、看板娘達の何気ない日常をイラストと共にお送り出来ればと思っています。

2016 / 6 / 18 流遠亜沙

アンケートに答える

『そーりよくせんっ！』ページに戻る

『AQUA PALACE』へ行く（イラストを描いてくださったポイズンさんのブログ）